

令和5年度 河頭中学校 2学期 学校評価

中24 鹿児島市立河頭中学校 令和5年12月26日

1 学校の重点目標

- 基礎的・基本的な内容の定着と自ら学び取る「確かな学力」の育成と学業指導の充実
- 生徒指導の充実と他人を思いやる心、感動する心などを育む心の教育・道徳教育の充実
- 心身の調和のとれた体力増進と学校安全管理の徹底及び充実

2 課題と改善策

番号	本年度の重点目標	R5 1学期	項目	評価	結果と改善方策
1	確かな学力を身に付けさせる	3.0	諸調査・検査からの実態把握と課題の明確化を迅速に実施したか。	3.1	職員研修で全国学テ分析を行い、二学期及び三学期への学習指導への共通理解を図った。
		3.0	明確化した課題解決の具体を授業での実践や家庭学習の充実に繋げる支援や啓発を行ったか。	3.2	ICT機器の活用やシグソー活動、河頭スタンダードに基づいた授業実践など、学習形態や方法の改善を進めた。
		3.4	TT指導や少人数指導等による知識・技能の定着を図ったか。	3.3	英語科の少人数指導の研修推進を進め、市研究協力校研究公開会で授業提供を行った。河頭スタンダードの各教科での実施も推進された。
		3.1	個別指導・補充指導の充実によって個々の伸長を最大限図ったか。	2.9	定期テスト前を中心に、学習時間の確保を図り自宅学習の充実・改善に取り組んだ。今後も基礎学力を応用力や思考力の向上に繋げたい。
		3.3	「河頭スタンダード」を取り入れた授業実践を進め、授業充実の3アクション(目標の明確化、山場の工夫、確かめと見届け)を実践したか。	3.3	研究授業(音楽、社会、外国語)の研究授業を通じた研修で授業充実の3アクションや河頭スタンダードの実践を研修できた。
		3.2	学習の躰の徹底、主体的な態度の育成(「学習の手引き」の活用)を進めたか。	3.0	学習の手引きの見直しと図り、河頭スタンダードに基づいた学習の躰を図ることができた。
		3.4	ツールとしてのICT活用の機会を増やしたか。(学期1以上の実践)	3.3	各教科で学期1回以上の実践目標を立て取り組み、職員研修でも実践を紹介し、振り返りシートの内容の共通項目を設定することができた。
2	体力、健康・安全に関する知識・習慣を身に付けさせる	3.2	教科・領域等との関連を図りながら、食に関する指導、性に関する指導、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、心の健康や生命尊重等の充実を図ったか。	3.1	各学年の発達段階に応じた専門家による講話を展開し、充実した活動となった。
		3.2	新しい生活様式を取り入れた衛生習慣を確立させることができたか。(感染症予防)	3.1	生徒会保健体育部と連携した、換気・手洗い推進を進め、生徒のインフルエンザ感染者発生を最小限にすることができた。
		2.1	一校一運動(ランニング、キャプテン会議等)による体力向上やケガ防止を図ったか。	1.9	月1回のキャプテン会議を定期的で開催し、新チームへの移行もスムーズに行われた。1年生の体力向上が課題なので、今後も工夫改善を進めたい。
		2.5	教科体育を充実し、自ら運動に親しみ実践していく能力や態度を育んだか。	2.6	運動に対して苦手意識をもつ生徒への指導・支援に課題を残した。3学期以降、部活動も含めたアプローチを進めたい。
		2.9	早寝・早起き・朝ごはん運動、むし歯治療率の向上など、家庭と連携した指導・啓発を実施したか。	2.9	生徒会保健体育部と連携した、指導・喚起を進めた。学校保健委員会でも学校歯科医の指導のもと、保護者啓発が治療率の向上を図った。
3	全教育活動を通じた道徳教育を充実させる	3.0	特活や他の教育活動との関連を図りながら、道徳的な実践に結びつく横断的な道徳教育を推進したか。	3.0	道徳の学習内容と学校行事を結びつけるなど、規範意識の醸成につなげた。
		2.8	道徳科授業の指導方法と評価の見直しを行ったか(一単位時間の指導過程及び評価)。	2.7	道徳の時間の確実な確保と評価についての共通理解を行い、研修を深めた。
		3.0	命の尊さ、思いやりの心の育成に特化した「いじめ問題を考える週間」の取組を意識化できたか。	3.2	9月当初の実践や「ニコニコ月間」との関連を図りながら、「いじめ撲滅宣言」の見直しや「全校で遊ぶ日」の設定・実践など、全校体制で取り組むことができた。
		3.2	「人権教育は、全ての教育の基本である」ことを認識する研修を実施し、人権感覚を醸成する学級・学校づくりを意識して実践したか。	3.3	生徒を対象にした「人権教室」や家庭教育学級でも「人権」をテーマに学習を推進できた。職員も校外での研修にも参加、還元ができた。
4	不登校の改善・解消を図る	2.8	命の教育(自殺防止教育、ストレスマネジメント等)を継続・充実させたか。	2.9	週2回のリラクゼーションの取組のマンネリ化が危惧されるので、今後の工夫・改善の必要性を感じる。また、地域の方々に学校の取り組みを紹介する機会を確保できたのはよかった。
		2.5	個別支援計画を基に、家庭・関係機関と連携して学校全体で対応できたか。	2.7	チーム単位での対応となってしまっている現状がある。民生児童委員との連携はできているので、全校的な取り組みとしたい。
		2.9	新規不登校事案予防のために早期発見・対応をとったか(対策委員会の継続審査)。	2.8	二学期は新規不登校生徒が発生した。今後も注視しながら生徒・保護者対応を心がけたい。
		3.1	教育相談やケース会議での情報を共有したか(対策委員会での継続審査)。	3.2	学級担任を中心に、チャンス相談や三者面談を実施。学級経営の充実や積極的な生徒指導、不登校防止につなげることができた。
		2.5	関係施設・SC・民生児童委員・市教委等との連携実践を行ったか。	2.5	SCや市SSW、心理相談員等関係機関との連携を進め、不登校傾向生徒及びその家庭との橋渡しができた。
		2.9	受容と共感に基づく生徒理解を深めるための研修充実を図ったか。	2.8	毎週1回の生徒指導部会とその報告を確実に実施し、共通理解のもと指導を進めることができた。
		2.4	河頭中地区青少年健全育成連絡協議会の充実を図ったか。	2.3	コロナ禍も落ち着き、地域の方々に多くの参加をいただいた。河頭中、小山田小の教育実践報告や情報モラルに関する講演も高評価をえた。
5	いじめ問題や問題行動への対応と予防を図る	2.9	観察・アンケートをとおして、いじめ問題の早期発見・早期対応を行ったか。	3.3	いじめアンケートを毎月行うことにより、実態把握に努めた。数件のいじめ事案の発生があった。今後の指導・支援を進めたい。
		3.1	生徒指導委員会を中心に共通理解・共通実践を行ったか。	3.1	毎週1回の生徒指導部会は機能し大きな問題行動の発生を防げた。ただ、校区内児童養護施設との連携に課題が残る。
		3.2	生徒理解に基づいた生徒指導を推進したか(問題行動や不登校などの未然防止)。	3.0	「自己肯定感」や「自己有用感」の向上は今後も課題の一つである。生徒理解をより一層進め、指導・支援に活かしたい。
		2.9	生徒会・学級活動を通して自治意識を育み、自浄作用を図ったか。	3.0	生徒会活動の活性化により、自治意識も高まってきた。生徒たちによる「自己教育力」の向上に繋げていきたい。
		2.8	全職員の共通理解・共通実践ができる校内支援体制を確立できたか。	2.9	毎週1回の生徒指導部会とその報告を確実に実施し、全職員による共通理解のもと指導を進めることができた。2学期も継続したい。
		2.6	個別の支援計画の作成及び支援の在り方の研究・実践を進めたか。	2.7	途中転入があり戸惑いもあったがコーディネーターと管理職を中心に研修も実施し、理解が進んだ。

6	特別支援教育の充実を図る	2.9	指導法や支援の在り方を模索・検討し、特性を伸長する教育を行ったか。	3.0	ほぼ全職員が支援学級の授業に関わる体制とし、多様な学びを支えることができた。今後も合理的配慮を進めながら学習支援を行いたい。
		2.9	特別支援教育支援員との連携、協働を強く図ったか。	2.8	本年度は週2回の配置をいただいた。来校された際は、時間割の変更などで支援を必要とする生徒の支援・指導をサポートできた。
		3.0	教育支援委員会の定例実施で、学びの場・指導方法の確認を行ったか。	3.0	毎月最終木曜日開催することが定着し、指導・支援の在り方や学びの場の検討など、対象生徒の指導に反映できた。
7	進路実現をさせ、キャリア教育の充実を図る	2.9	職場体験、職業講話、高校訪問、専門学校フェスタ等の体験をとおして、生徒に具体的なビジョンを持たせることができたか。	3.1	3年生を中心に職場体験学習や上級学校ガイダンスが開催され、進路選択の意識の高まりを生むことができた。
		3.2	生徒に上級学校や職業など、中期・短期の目標を設定させることができたか。	3.0	系統だった指導・支援とすべく入学時から卒業時までを見据えた進路計画を意識させたい。今後は1～2年生のキャリア教育を推進したい。
		3.2	目標の達成に向かう筋道を学ばせるための助言や情報を与えることができたか。	3.2	生き方指導も含め、中学校卒業後の自分をイメージできるような指導を展開したい。また、必要な進路情報は学年を問わず提供していきたい。
		2.8	進路情報の収集・整備、定期相談等を系統的・継続的に行ったか。	3.3	3年生での指導経験を、今後は1～2年生に還元できるような情報の収集・啓発を積極的に推進したい。
8	安心・安全な学習環境を整える	3.1	安全点検の結果を即時対応・改善することができたか。	2.8	係、学校専門員が連携しあい問題箇所即時対応ができた。
		3.1	避難訓練をとおして、危機意識の高揚と新しく正しい知識、実践力を身に付けさせることができたか。	3.2	不審者対応だけでなく水害や土砂崩れなどの発生も考えられるので、その都度、避難場所や避難経路についても継続した指導を行いたい。
		3.2	グリーンクリーン週間（一人一鉢）等の取組で花いっぱい学校にできたか。	3.2	学校専門員さんを中心に、生徒も緑化・花植等に取り組むことができた。
		2.8	水害被災地区の教訓を伝え、生かすことができたか（校区安全マップの点検）。	2.9	校区安全マップをもとに安全指導を行い、新しい情報を発信・啓発ができた。
		2.9	合理的配慮に基づいた設営と新しく正しい知識・情報を伝える掲示を心がけたか。	2.8	各学級とも配慮と工夫がなされた学級設営や校舎内掲示が行われた。3学期も継続したい。
9	ICTを活用した活動拡充を情報モラルの育成を図る	3.1	GIGAスクール構想の推進を図ったか（タブレット端末活用による授業活用例を増やす）。	3.1	教科間で若干の差はあるが、本校の課題として職員が意識して取り組み自己評価も向上した。
		2.3	個人情報保護マニュアルの作成、情報保護管理体制の整備を進めたか。	2.2	学校HPやブログ掲載への指針の作成、タブレット持ち帰り指針の作成を行い、体制の整備を進めた。
		2.6	情報モラル教育の年間指導計画の作成と情報モラル教育を進めたか。	2.4	各教科・領域と連携した情報モラル指導計画が作成され、情報モラル教室も充実した学びとなった。
10	開かれた学校づくりを推進する	2.8	HPや学校だよりでの定期的な情報発信を行ったか。	2.8	月1回以上の便り発行とブログ更新を目標に取り組んだ。ほぼ達成できた。
		2.8	例えばエイサー披露を手段として、校区内外への貢献を進めたか。	3.0	コロナ禍もあけ、一部校外でのエイサー披露を行うことができた。今後に向け練習を継続したい。
		2.9	コミュニティースクールとしての準備を進めたか（学校運営委員の選出、職員コミュニティースクール理解等）。	2.9	計画的な準備を進め、協議会も予定通り開催できたが、保護者への告知は課題が残る。継続した「コミュニティースクールだより」等の発行を進めた。
		2.8	参加的な研修やSee-Smileでの定期的な情報提供を行い、法規等に基づいたサービスの理解を進めることができたか。	2.9	不祥事案件の新聞記事紹介など「自分事」として捉えることができるよう指導できた。
		2.7	学校だよりやHPで業務改善の具体を保護者に理解してもらう取組を行ったか。	2.9	時間外電話対応の連絡や学校閉庁日の案内等は伝達できた。今後も業務改善について様々な形で理解をいただけるよう啓発を続けたい。
11	まず職員が心身ともに健康で、服務規律を確保した上で実感できる業務改善を行う。	2.6	業務改善係を管理職以外に設定したか。	2.6	校務分掌に位置づけ、衛生委員会にも参加してもらった。今後の業務改善推進の一助としたい。
		2.8	月1回以上の年休取得の目標提示と達成を図ったか。	2.6	校長のリーダーシップのもと、職員が気軽に年休取得できる環境や雰囲気醸成したい。
		2.5	年休を取得しやすい日課表を活用したか。	2.6	校時表の見直しを行い、毎週水曜日の勤務終了時刻までのゆとりを生むことができた。
		3.0	紙やインクを減らしたり、節水・節電したりする日常を意識化できたか。	3.0	生徒会の学校版ISO活動とリンクさせた取り組みを推進させ、コスト意識をもった学校運営を進めたい。